

## 「私を大きくしてくれた中国に感謝」留学記



人文学部社会科学科 吉田有希

2014年2月から15年1月まで北京の国際関係学院へ留学しました。学院は、本キャンパスと留学生キャンパスが分かれており、主に、留学生と一緒に行動していました。

留学生は、10人ほどで、すぐに仲良くなりました。

1年間は、あっという間でした。1日1日が高速で過ぎたわけではありません。どうしてもなく帰りたかったこともあります。

1日中部屋に引きこもっていた日や悔しくて泣いた日もありました。今となってはすべてがよい思い出です。

中国語との出会いは入学後の未修外国語の授業でした。英語以外の外国語を学びたい、漢字だから親しみを感じた、との理由で選択しました。その時は、留学するとは夢にも思っておりませんでした。

きっかけは1年の春休み期間中に参加したベトナム文化を知る旅です。見たものすべてが新鮮で、当たり前で通用しない、まさしく海外でした。この頃から留学に興味を持つようになりました。

中国を選んだのは、言葉を学んでいたということや、指導教官から日本で言



われていることが中国の全てではないと聞き、自分の目で見てみたいと思ったからです。

留学した先輩から話を聞き、少人数で中国語が学べ、今までに派遣された茨大生が少ないということで決めました。当時は、リスニングとスピーキングが



大の苦手で、「你好」と「谢谢」しか言えないレベルでした。

マクドナルドを初めて訪れた時、指を差せば、注文できると甘く考えていました。

ところがお店にはメニュー表はありません。

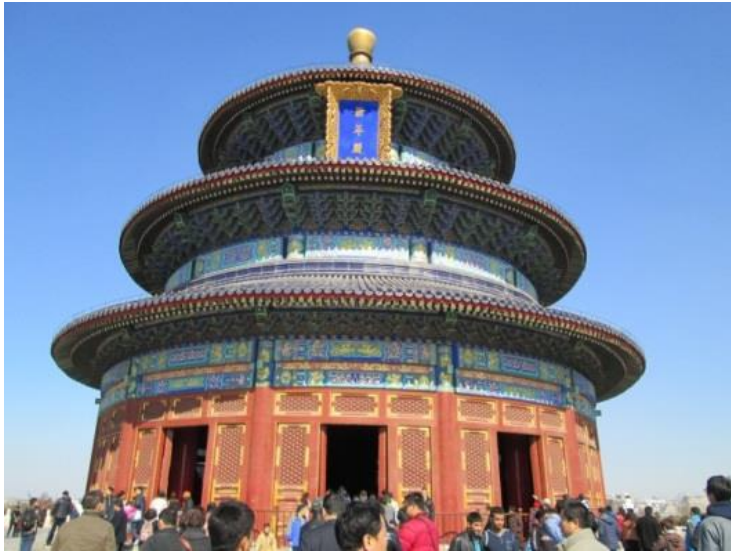
「メニューを見せて」の中国語が分からない。必死の身振り手振りでやっと注文できました。最初の1か月はとにかく必死でした。

少人数と聞いていた授業は、スタート時、なんと1対1。キャンパスの日本人は私1人。真剣勝負で、発音の基礎から学びました。毎日、同じことを繰り返すので嫌になったこともありました。

ところが、お店の支払いで、聞き取れずにいつも大きなお札を出していた私が、いつの間にかちゃんと聞き取れるようになっていました。理解できずに黙って首をかしげていたのが、「分からない」と言えるようになったのです。語学力は確実に進歩しました。

ところが、反比例して、モチベーションはどんどん下降、ネガティブ思考になっていました。できないことを気にし、話すことが嫌になり、極力話さない生活になっていました。

それでも留学生仲間が食事や遊びに誘ってくれました。英語と中国語を織り交ぜて、分かるように話してくれました。それでも、返事するのをためらっていました。楽しかったことよりも、辛いと感じたことの方が最初の半年は多かったです。



それでも、夏休みに一時帰国し、それまでの留学を振り返り、自分の成長を実感しました。それが後半のやる気に繋がりました。

残る半年は、3人クラスで授業を受けました。会話の反復練習がほとんど

でしたが、お互いの国の事情を話し、教科書の例文について議論しました。

放課後は、他の留学生と一緒に食事、勉強し、遊びに出かけ、充実した日々を過ごしました。時には本気で喧嘩をしたこともありました。

仲間の誕生日では、皆でサプライズを計画、週末の金曜日にはミニパーティーを開き、盛り上がりました。インフルエンザにかかった時、仲間の皆が心配して、食事を持ち寄り、先生が病院まで連れて行ってくれ、家族のような存在でした。

帰国が間近に迫り、「帰りたいけど帰りたくない」、「もうこのファミリーが全員そろそろ機会はないのか」と考えると、とても悲しくて、複雑な気持ちになりました。最初の半年は、こんな気持ちになるなんて考えられませんでした。辛かった時期も含めて、今ではかけがえのない思い出です。

中国の大気汚染で、PM2.5 が心配されています。空気は、お世辞でもよいとはいえません。政治的な面から渡航をためらう向きがあるかもしれません。反日を示す貼り紙や看板は確かにあります。

ただし、少なくとも出会った中国人は、日本人だと分かっても一個人として真摯に接してくれました。

日本では見られない光景がたくさんありました。バスや地下鉄ではお年寄りや子供に席を譲るのが当たり前です。見ず知らずの他人に話しかけられ話が盛り上がることもしばしばありました。

日本の方がいいなと思ったこともあります。利用したタクシーから法外な料金を2回ほど要求されたこともありました。悔しくて腹立たしかったです。寮費のことで職員と口論になったこともあります。これらの出来事は間違いなく私を強くしてくれたと思います。

日本の良いところ・悪いところ、中国の良いところ・悪いところを自分の目で見て感じることができました。

留学を通して、自分から行動しなければ何も始まらないということに気がきました。話さなければ語学は上達しないし、自分から話しかけなければ友達は作れません。でも語学力が一番大切なわけではありません。

メニュー表が見つからず慌てたマクドナルドでも、ジェスチャーで注文できました。伝える気があれば通じます。完璧な中国語や英語を話さないと通じないというわけではありません。伝える努力、姿勢が一番大切です。



授業で教えてもらったのは中国語ですがそれ以外にもたくさん学ぶことがありました。帰国の当日、不当に高いタクシー代を請求されました。でも、やっぱり中国にまた行きたいと思えます。そう思えるようになったのは出会ったすべての人のおかげです。私を大きくしてくれた中国に感謝です。

(終)